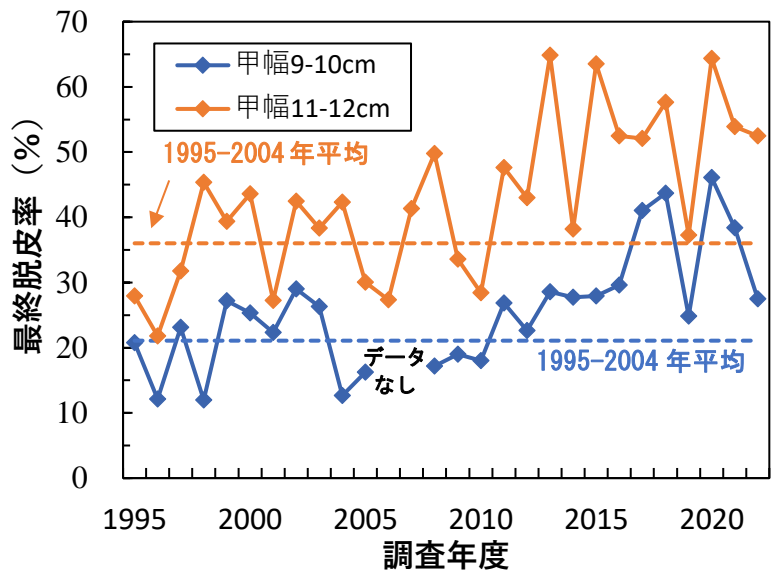


ズワイガニ（水ガニ）の調査を実施

雄のズワイガニは、通常年に一回脱皮をして成長します。脱皮して数カ月は甲羅が柔らかく「水ガニ」と称され、未成熟で市場価値が低く、京都府では自主的に漁獲を禁止しています。脱皮には生涯最後となる最終脱皮とその後も脱皮を繰り返す通常脱皮の2種類があります。前者のハサミは大きく、後者は小さいことから、甲羅とハサミの大きさを測定することで、両者を識別できます。最終脱皮となったカニは翌年には市場価値の高い「ブランド蟹」となります。

当センターでは、毎年水ガニの甲羅の幅(甲幅)やハサミの大きさを測定し、最終脱皮となった割合(最終脱皮率)を調べています。近年、甲幅13cm未満の中・小型の最終脱皮率が高くなってきており、このことはブランド蟹の小型化につながることを示唆しています。今後も調査を継続し、ズワイガニ資源の効率的な利用に向け、最終脱皮率の推移や資源状況の把握に努めます。



最終脱皮(上)と通常脱皮(下)した雄の水ガニ

最終脱皮率の経年変化